

アデノウイルス

アデノウイルス…

これから夏にかけて、『夏に流行る感染症』ということで、今回はアデノウイルスについてとりあげてみます。ただしアデノウイルスは季節性がなく、冬でもみられることがあります。夏のウイルス感染症の発症時期は5月から8月といわれ、主な症状は下痢、発熱、嘔吐、などです。夏は暑さや冷房のかけすぎなどで体調を崩しがちになり、体の免疫力がダウンするため、長引くことが多いのも特徴です。

<特徴>

アデノウイルス科のDNAウイルスで6つの亜属に分類され、これまでに51の血清型が報告されています。消毒はアルコールが有効です。その他には次亜塩素酸ナトリウム、グルタールアルデヒドも可。感染経路は便・経口感染(予防には手指衛生・うがいが大変)で、扁桃腺やリンパ節の中に潜んで増殖します。潜伏期は5～7日で、免疫がつきにくいため何度も感染することがあります。

<症状>

アデノウイルスはさまざまな症状を引き起こします。

① 上気道炎、気管支炎、肺炎

熱、鼻水、咳、のどの痛み等を主な症状とするいわゆる‘カゼ’の原因で、時にインフルエンザ様症状を起こすこともあります。特に、アデノウイルス7型は重症の肺炎を起こすことで知られており、5歳以下の乳幼児がかかると多く、髄膜炎、脳炎、心筋炎などを併発することもあります。

② 扁桃腺炎

扁桃腺に膿がつき、高熱が3～7日間続くことが多く、血液検査では炎症反応が強く、細菌感染と区別がつかない場合があります。

③ 咽頭結膜熱(プール熱)

主としてアデノウイルス3型が原因となり、3～7日の高熱と、扁桃腺の腫れ、のどの痛みを訴えます。両目または片目が真っ赤に充血し、目やにが出ます。夏にプールを介して流行することがあるため、プール熱とも呼ばれています。プールに入らなくても飛沫や糞便を通して感染します。うがい、手洗い、プールの塩素消毒などで、ある程度予防できます。学校伝染病の一つであり、主要症状がなくなった後、2日間登校禁止となります。

④ 流行性角結膜炎

主としてアデノウイルス8型が原因で、目が充血し、目やにが出ますが、咽頭結膜熱のように高熱はなく、のどの赤みも強くはありません。学校伝染病の一つで、伝染の恐れがなくなるまで登校禁止となります。

⑤ 胃腸炎（嘔吐下痢症）

ロタウイルスと同じく、乳幼児の嘔吐下痢症の主な原因となります。特にアデノウイルスによる腸炎は、腸重積を起こす原因になると言われています。

⑥ 出血性膀胱炎

主としてアデノウイルス11型が起こします。排尿時痛があり、真っ赤な血尿が出ます。

⑦ 無菌性髄膜炎

他のウイルスによる髄膜炎同様、発熱、嘔吐、頭痛が主な症状です。

【アデノウイルス感染症の診断】

インフルエンザ感染症の検査のように簡易キットにて、咽頭ぬぐい液、角結膜ぬぐい液でアデノウイルスの感染を診断することができます。

